

みられなかったが、これには、自記式の調査票であること、サンプルサイズが小さいことが影響している可能性がある。サンプルサイズについては、今後、さらに対象数を増やして解析する予定である。

BPRS 得点別に各生活習慣の有無をみると、いずれの項目においても χ^2 -test の結果は有意でなかった。望ましい生活習慣を維持できるかどうかは、症状の重症度と関連しないことが示唆された。

E. 結論

今年度は、現在地域で生活している精神障害者(原疾患:統合失調症)54名について、その健康習慣の実態を明らかにした。

健康習慣の有無と年齢階級との χ^2 -test を行ったところ、「運動」、「喫煙」、「飲酒」、「肥満」、「睡眠時間」、「朝食摂取」、「間食」のいずれの健康習慣においても、年齢階層による傾向の違いは有意でなかった。ただし、定期的な運動習慣がない者、適性体重が維持できていない者、間食や喫煙の習慣がある者は、どの年齢階層においても高率であり、これらの健康習慣については重点的に改善を図っていく必要があるだろう。また、望ましい健康習慣を確立するために必要な支援については、来年度以降、他要因との関連を解析することで考察していきたい。

研究班の中で菅原は、「精神障害者本人の態勢」について担当した。研究期間は3年間であり、第1年目である平成16年度は、健康習慣の実態把握の調査票作成および自記式質問紙調査を行った。17年度には、サンプルサイズ拡大のため、これまでの調査研究を続行するとともに、当事者に対するインタビュー調査を行う予定である。18年度には、以下の関連研究(表10)、および、未発表の内部調査(市精連データ)を基に、支援のガイドラインを作成する。

表10 関連研究一覧

論文

菅原道哉, 鈴木牧彦, 佐久間祐子, 広瀬芳文. 精神分裂病障害期にある人の体力変化. 最新精神医学. 7:363-372. 2002.

報告書

中島節夫, 菅原道哉, 鈴木牧彦. 精神分裂病における運動技能と注意機能に関する研究, 平成10年度科学研究費補助金(基盤研究(C))(2)研究成果報告書(研究 08671106). Pp.105 . 2000.3.

著書

菅原道哉. 「居住福祉に向けて一住まいとは何か, 住まうとは何か」. (財)全国精神障害者家族連合会編集. 精神障害者グループホーム設置・運営・ハンドブック. 中央法規. 2005 東京. 2005

学会発表

菅原道哉. シンポジウム:精神障害者のスポーツ振興. 第 22 回日本社会精神医学会. 千葉. 2003,3.

Sugawara M, Suzuki M and Sakuma Y: Physical Fitness of Patients with by Schizophrenia, XII World Congress of Psychiatry, Yokohama, 2002,8.

E. 研究発表

1. 論文発表

菅原道哉. 「居住福祉に向けて一住まいとは何か, 住まうとは何か」. (財)全国精神障害者家族連合会編集. 精神障害者グループホーム設置・運営・ハンドブック. 中央法規. 2005

2. 学会発表

藤城有美子, 平部正樹, 城川美佳, 熊倉伸宏, 菅原道哉, 矢野英雄. 「国際障害分類に基づいた心身障害者の障害把握」. 第 63 回公衆衛生学会総会. 松江. 2004

F. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

以上

平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金(障害福祉総合研究事業)
精神障害者の正しい理解に基づく、ライフステージに応じた
生活支援と退院促進に関する研究
分担研究報告書

精神障害者のライフステージに応じた住居、施設のあり方に関する研究

分担研究者 山内 慶太(慶應義塾大学看護医療学部)

研究要旨

ライフステージに応じた精神障害者の住居・施設のあり方を示すことを目標とする本分担研究では、初年度の平成 16 年度は、必要な住居、施設の類型を整理すると共に、これを生活支援並びに医療のニーズとの関連からも検討する為の基礎資料とすべく、平成 15 年に実施された「精神障害者社会復帰ニーズ等調査」の入院患者調査のデータセットを利用した分析を行った。

主治医が現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能と判断した患者を抽出して、年齢階級別に、基本属性、臨床特性、退院後に求められるサービス、就労の可能性、患者本人の希望と不安等について分析した。その結果、退院可能と判断された患者においても年齢が上がるにつれて、長期在院患者並びに、総合的な機能、日常生活能力等が低い患者の割合が増大する傾向が認められた。これらの傾向等と対応するように、主治医が適切と考える退院後の「暮らしの場」も、20-29 歳では家族と同居が大半を占めるが、年齢と共に減少し、その分、30-39 歳では一人暮らしなどが、40-69 歳では精神障害者用の入所施設、70 歳以上では高齢者用入所施設が増加していた。また、家族と同居や単身生活が適当とされた患者においても、その約半数では、退院後も専門職(看護師、ソーシャルワーカー等)、非専門職(ヘルパー等)の訪問サービス等の支援が必要なことが確認された。加えて、家族と同居が適当とされた患者についても、家族に期待できる支援の程度は多岐にわたっており、本人と家族の状況に柔軟に対応できるサービス体制が必要であることが示唆された。

以上のように、主治医が退院が可能と判断する入院患者についても、ライフステージに応じた特性があり、それに留意した施策が必要である。しかし同時に、同じライフステージ内でも特性が多岐に亘って分布しており、よりきめ細かで柔軟な施策が望まれる。

A 目的 「精神保健医療福祉の改革ビジョン」
精神保健福祉対策本部が提示した (平成 16 年 9 月)では、「受入条件が

「整えば退院可能な者(約7万人)」については、精神病床の機能分化・地域生活支援体制の強化等、立ち後れた精神保健福祉体系の再編と基盤強化を全体的に進めることにより、併せて10年後の解消を図ることが基本方針として示されている。この実現の為に、精神障害者のライフステージに応じた生活支援が不可欠であり、その1つに住居・施設の整備がある。

そこで、ライフステージに応じた精神障害者の住居・施設のあり方を示すことを目標とする本分担研究は、初年度の平成16年度においては、必要な住居、施設の類型を整理すると共に、これを生活支援並びに医療のニーズとの関連からも検討する為の基礎資料として、「精神障害者社会復帰ニーズ等調査」の分析を行った。

ところで、前述の「精神保健医療福祉の改革ビジョン」の基本方針の下に、ライフステージに応じた生活支援を整備する為には、「受入条件が整えば退院可能」とされた入院患者約7万人について、どのような条件を整える必要があるのかを明らかにすることが第一に求められる。しかし、この「約7万人」の根拠となった患者調査ではその条件の具体的内容までは把握されていない。これに対して、「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」では同趣旨の設問とその条件が仔細に把握されている。そこで本研究では、同ニーズ等調査のデータセットを用いて、特に「受け入れ条件が整えば退院可能な者」について、その特性と必

要なサービスの内容をライフステージに応じて検討することにした。

B 方法

本研究は、精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査のデータセットを利用した。同調査は、今後の精神保健福祉施策の基礎となることを目的として厚生労働省から委託を受けた日本精神科病院協会によって平成15年3月に実施されたものである。調査は、入院患者調査、外来患者調査、社会復帰施設入所者調査に大別され、それぞれ、主治医調査票と本人用調査票から構成される。このうち、本研究では、入院患者調査のデータセットを用いた。

なお、同調査では退院の可能性を把握する設問として、主治医調査票に患者調査と同一の設問と同調査独自の設問がある。前者は、「対象者の入院の状況について、次のうちあてはまるものを1つ選択しなさい」(問15)で、「①生命の危険はないが入院を要する」「②生命の危険がある」「④検査入院」「⑤その他」と共に「③受け入れ条件が整えば退院可能」が選択肢に用意されている。後者は、「対象者は、問27～問34まで示すような居住先・支援が整えば退院は可能ですか。あてはまるものを一つ選択して下さい」(問35)に対して、「①現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院は可能」「②状態の改善が見込まれるので、居住先・支援などを新たに用意しなくても近い将来(6ヶ月以内)には退院が可能

になる」「③状態の改善が見込まれるので、居住先・支援が整えば近い将来(6ヶ月以内)には可能になる」「④状態の改善が見込まれず、居住先・支援を整えても近い将来(6ヶ月以内)の退院の可能性はない」から選択する設問がある。そして、既に、両設問の分析から、前者の設問に対して主治医が「受け入れ条件が整えば退院可能」と判断した入院患者には、現時点で可能な者と、将来状態の改善が見込まれることを前提としている者の両者が混在していることが確認されている。

そこで本研究では、後者の設問(問35)で主治医が①と回答した入院患者について、主治医調査票のデータを用いて、年齢階級別に、基本属性、臨床特性、退院後に求められるサービス、就労の可能性等について分析した。また患者本人の希望と不安並びにその背景についても、本人用調査票のデータを併用して検討した。

(倫理面への配慮)

本研究で用いた精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査は、透明性と中立性の確保が当初から重視されており、日本精神科病院協会だけでなく、日本精神神経科診療所協会、国立精神療養所院長協議会、全国自治体病院病院協議会、全国精神障害者家族会連合会の各団体の代表、そして研究者等で組織された「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」企画委員会の協議・監督の下に実施されたものである。また、報告書の作成段階では、厚生労

働省が組織した「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査検討会」において、その調査方法と調査結果の妥当性が関連諸領域の団体の代表と研究者によって公開の場での討議によって、確認されている。

調査方法の倫理性についても、これらの各段階で確認されている。また、調査終了後のデータセットの利用については、日本精神科病院協会内に設けた「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」データ管理委員会の管理下で有意義に活用することが、承認されている。

なお、本調査のデータセットは、患者を特定できる氏名やカルテ番号などは含まれていない。加えて、分析に当たっては、如何なる状況でも個人を特定できないように、集約データの統計的な分析結果としてのみ発表するよう配慮した。

C 結果および考察

1. 基本属性

入院調査のデータセットは、調査票が回収された患者数は総計で 17,364 人であり、そのうち同意の得られなかった患者等を除く 12,173 人のデータで構成されている。この中には、本人調査票のみ提出された患者と主治医調査票のみ提出された患者も含まれている為、主治医調査票は 12,009 人分、本人用調査票は 11,053 人分である。

主治医が「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院は可能」と判断

した患者は、15.0%の1,767人であり、年代別に見ると、19歳以下の25.4%、20-29歳の20.3%、30-39歳の17.0%、40-49歳の15.3%、50-59歳の13.9%、60-69歳の13.6%、70歳以上の14.3%を占めていた(表-1)。なお、病院種類の内訳は、日精協病院が1,390人であり、その他は、自治体立病院が250人、大学病院が72人、国立病院が55人である。

平均在院期間を年代別に見ると、19歳以下が 0.26 ± 0.31 (平均±標準偏差)年(中央値0.31年)、20-29歳が 1.15 ± 2.06 年(0.29年)、30-39歳が 1.95 ± 3.33 年(0.45年)、40-49歳が 4.02 ± 6.37 年(0.74年)、50-59歳が 7.47 ± 9.28 年(3.09年)、60-69歳が 9.20 ± 11.19 年(4.39年)、70歳以上 6.63 ± 10.88 年(1.70年)である。また、在位期間別の構成比は、表-2の通りであり、1年以上入院している患者の割合は、20-29歳の25.5%から、年齢が上がるにつれて増加し、50-59歳で65.4%、60-69歳で71.5%であった。

ICD-10に基づく診断別の内訳は、20歳～69歳の各年代では統合失調症(F20)が57.7～62.6%を占めていたが、19歳以下では23.5%で、代わりに神経症性・ストレス関連・身体表現性障害(F4)が、70歳以上では34.4%で、代わりに痴呆性疾患(F00-03)が31.6%を占めていた(表-3)。

2. 臨床特性

GAF(機能の全体的評定尺度)は、全体での平均が 54.1 ± 18.0 で、年代

別に見ると、19歳以下で 54.1 ± 18.0 、20-29歳で 58.1 ± 16.0 、30-39歳で 55.9 ± 15.9 、40-49歳で 57.0 ± 16.7 、50-59歳で 57.5 ± 17.1 、60-69歳で 55.8 ± 17.3 、70歳以上で 50.1 ± 19.7 であった。また、評点別の構成比を見ると、「現実吟味か意志伝達にいくらかの欠陥、または仕事や学校、家族関係、判断、思考または気分など多くの面での粗大な欠陥」があると定義される40点以下の患者が、20-29歳(19歳以下は人数が少ないことから、以下の文中では主として20歳以上の傾向について記す)の19.1%から、60-69歳の28.0%、70歳以上の35.6%まで順に増加していた(表-4)。

「自分の病状についての洞察(病識)」の程度は、「十分にある」が、20-29歳の39.4%から70歳以上の13.5%まで年齢が高くなるにつれて減少し、逆に「殆どない」が特に60-69歳で23.8%、70歳以上で37.1%と多くなっていた(表-5)。また、薬物療法の必要性についても、「十分に認識している」は20-29歳の38.3%から70歳以上の17.8%まで、年齢が高くなるにつれて、減少していた(表-6)。

IADL(手段的日常生活動作)は、たとえば、「食事の用意」では、「問題ない」が20-29歳の36.2%から、60-69歳の15.2%、70歳以上の6.7%と年齢が上がるると共に減少するのに対して、「非常に困難」は20-29歳の24.5%から、60-69歳で43.0%、70歳以上の70.2%と増加していた。また、「電話の利用」では、「問題ない」が20-29歳では

80.9%であるのが、60-69歳では48.9%、70歳以上では29.4%と減少するのに対して、「非常に困難」が20-29歳の4.3%から、60-69歳で12.8%、70歳以上で36.5%と増加している。他の項目も同様の傾向が認められた(表-7)。

IADLの各項目で「いくらか困難」または「非常に困難」であった項目数の分布は、図-1の通りであった。即ち、年齢と共に、IADL全般にわたって低下傾向が認められると共に、特に60歳以上での顕著な低下が認められた。

3. 退院後に求められるサービス

①退院後に適当な暮らしの場

「退院後、対象者は、どのような「暮らしの場」での生活が適当でしょうか」という設問に対する主治医の回答は、「家族と同居」が20-29歳では81.9%を占めていたのに対して、年齢が上がると共に減少し、60-69歳では35.6%、70歳以上では23.9%であった。一方、「入院前に住んでいた自宅・アパートなどでのひとり暮らし」「賃貸アパートなどを新たに借りてのひとり暮らし」を合わせていわば単身での生活は、30-39歳で17.2%と一番多くを占め、60-69歳で9.4%、70歳以上で3.4%と減少する。一方、「生活訓練施設(援護寮)」「福祉ホーム」「入所授産施設」「グループホーム」の精神障害者用入所施設入所者は、50-59歳の構成比が一番大きく、32.5%であった。また、「老人保健施設」「特別養護老人ホーム」「用語老人ホーム」、「(これら)以外の老人福祉施設」の高齢者用入所

施設は、年齢と共に増加し、70歳以上で56.7%を占めていた。(表-8)

②退院後に必要なフォーマルな支援

次に、上記のような「暮らしの場」に退院した場合に、「専門職(看護師・ケースワーカーなど)による援助・支援」が必要であると主治医が考えている患者の割合は、全体で57.6%であり、年代別には、52.1%(20-29歳)から62.3%(50-59歳)の間で分布していた。一方、「非専門職(ヘルパーなど)による援助」が必要な患者の割合は、全体の33.3%であり、年代別には、20-29歳の11.7%から70歳以上の54.0%まで年齢と共に増加する傾向にあった。また、給食サービスは、全体の14.6%が必要とされており、年代別には20-29歳の2.1%から70歳以上の23.0%まで年齢と共に増加する傾向にあった(表-9)。なお、必要の如何、必要とされた場合の必要頻度をまとめて年代別の分布を見ると、図-2、3の通りであった。

これらを前述の主治医が適当と考える「暮らしの場」毎に見ると、家族と同居が適当とされた患者では、専門職による援助が47.2%、非専門職による援助が20.2%、給食サービスが5.0%が必要とされた。また、単身生活が適当とされた患者では、順に56.0%、30.1%、12.4%が必要とされた。精神障害者用施設が適当とされた患者では順に74.3%、46.6%、27.8%、高齢者用施設が適当とされた患者では順に65.7%、53.0%、21.9%であった。なお、これらの専門職と非専門職による援

助が必要とされた場合のその必要頻度については、表-10、11の通りであった。

③退院後に必要な家族などのインフォーマルな支援

「退院した場合に、家族や友人などからどの程度の支援が得られるか」の問いに対しては、「ほぼ毎日のADL、IADLの支援」と「必要であれば24時間を通じてのADL、IADLの支援や見守り」が20-29歳では45.8%を占めていたのに対して、年齢と共に減少し、60-69歳では16.4%にとどまっていた。一方、「支援は得られない」「助言や精神的な支援のみ」は、20-29歳の43.6%から年代が上がると共に増加し、60-69歳で73.7%であった(表-12)。

ちなみに「家族と同居」が適当と主治医が回答した患者について家族による支援の可能性を見ると、20-29歳では「ほぼ毎日のADL、IADLの支援」と「必要であれば24時間を通じてのADL、IADLの支援や見守り」が54.6%であり、一方、「支援は得られない」「助言や精神的な支援のみ」は36.4%であった。年代があがると共にその構成比は逆転し、60-69歳では、前者が40.0%、後者が50.4%であった(表-13)。

退院後に家族からどの程度の支援が得られるかを類推する上で、「入院中」の面会の状況に関するデータも有用である。そこで、面会の状況についても検討した。

「対象者の家族・親戚や親しい友人などによる面会の頻度」は、「月に1回以上」が全体で45.0%で、年代別に

は20-29歳で85.1%、30-39歳で75.3%と高いのに対して、40-49歳では49.6%、50-59歳では35.6%、60-69歳では30.0%と低くなり、逆に「ほとんどない」の割合が20-29歳の5.3%、30-39歳の8.6%から、50-59歳の30.2%、60-69歳の32.7%と多くなっていた(表-14)。

4. 退院後の就労能力

「退院した場合に可能と思われる就労能力」は、「フルタイム(一般)」は、一番多かった40-49歳でも11.8%に留まっていた。また「フルタイム(通常の就労に比べて負荷が軽く、低賃金での就労)」と「パートタイム」は、20-29歳では合わせて47.9%であったのが、年齢の上昇と共に減少し50-59歳では19.8%であり、一方、「授産施設・作業所での就労」と「いずれも困難」は20-29歳の30.9%、10.6%から50-59歳の42.5%、29.8%まで増加する傾向にあった(表-15)。

5. 退院並びに退院後の生活への本人の希望と不安

患者の本人調査票の「あなたは今後半年以内に退院を希望しますか」の回答を年代別に見ると表-16の通りであった。

この本人の退院への希望と主治医の判断と、主治医の判断、すなわち主治医調査票の「問27~34までで示すような居住先・支援が整えば退院は可能ですか」の回答の異同は表-17の通

りであった。

また、主治医が「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院は可能」と判断した患者について、退院後の生活の場と就労に関する本人の希望を見ると以下の通りであった。「あなたが退院されるとしたら、どのようなところで暮らしたいと思っいらっしゃいますか」に対する本人の回答は表-18の通りであった。また、「退院した社会生活が送れるようになった場合、働くことについて以下のどの状態を希望しますか」に対する本人の回答は表-19の通りであった。

次に、これらの回答と主治医の判断の異同についても検討した。すなわち、「退院後、対象者は、どのような「暮らしの場」での生活が適当でしょうか。」に対する主治医の回答と、「あなたが退院されるとしたら、どのようなところで暮らしたいと思っいらっしゃいますか」に対する本人の回答の異同は表-20の通りであった。

また、「対象者が退院した場合に可能と思われる就労能力」に対する主治医の回答と、「退院した社会生活が送れるようになった場合、働くことについて以下のどの状態を希望しますか」に対する本人の回答の異同は表-21の通りであった。

主治医が「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院が可能」と判断した患者で本人も「退院を希望する」と回答した患者について、「あなたが退院されるとしたら、退院後の生活で不安なことはありますか」に対する回

答を見ると、全体の41.7%が「病気が再発したり悪化したりしないか不安」と答えていた。次いで、「仕事が見つかるか不安」「家族との関係が不安」「ひとり暮らしが不安」「住居について不安」の順で多かった(表-22)。

一方、主治医が「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院が可能」と判断した患者で本人は「退院を希望しない」と回答した者について、その理由を見ると、「まだ病気が良くなっていないと考える」「自分の体力や体のことが不安」「病院に入院している方が気楽で安心」「退院しても住む場所が心配」「ひとり暮らしに自信がない」などが多かった(表-23)。

D 考察・結論

本研究では、「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」の入院患者調査のデータセットを用いて、主治医が「現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能」と判断する入院患者について、年齢階層別に分析した。

結果を用いる際には、以下の諸点を考慮する必要がある。

第一に、同調査は、病院等団体によって抽出率、回収率に相違がある為、全国の全入院施設を母集団とした団体種別の割合を完全には反映していない。したがって、精緻な推計に本結果を用いる際には注意が必要である。

第二に、同調査は、対象者中に本人の同意を得られなかった患者が相当数いた為、分析結果となった患者の重症度は、母集団と比べて軽度に偏って

いる可能性があることに留意が必要である。

第三に、分析対象から「状態の改善が見込まれるので、居住先・支援などを新たに用意しなくても近い将来(6ヶ月以内)には退院が可能」または「状態の改善が見込まれるので、居住先・支援が整えば近い将来(6ヶ月以内)には退院が可能」な患者を除外してあることである。これらの患者には、若年で在院期間も短いいわゆる急性期の患者と、年代が高く在院期間も長期に及んでいるいわゆる慢性期の患者が含まれている。本研究では、現実的で具体的な施策の基礎資料となりうるように、調査時点の「現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能」な患者に絞って分析したが、異なるタイプの「近い将来には退院が可能」と見込まれる患者についても今後検討する必要がある。

本研究から主として以下の諸点が確認された。

まず、「現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能」な患者であっても、年齢が上がるにつれて、長期に在院している患者の構成比が大きくなると共に、GAF、IADL項目などで捉えた総合的な機能、日常生活能力等が低い患者の割合が増大する傾向が見られた。

これらの傾向等と対応するように、主治医が適切と考える退院後の「暮らしの場」は、20-29歳では家族と同居が81.9%と大半であるが、年齢と共に減少し、その分、30-39歳では一人暮

らしなどが、40-69歳では精神障害者用の入所施設、70歳以上では高齢者用入所施設が増加していた。

また、主治医が退院後に必要と考える専門職(看護師、ソーシャルワーカー等)、非専門職(ヘルパー等)の援助の程度等から、家族と同居や単身生活が適当とされた患者においても、その約半数では専門職、非専門職による訪問サービスが必要なことが確認された。加えて、家族と同居が適当とされた患者についても、家族に期待できる支援の程度は多岐にわたっており、本人への家族のインフォーマルなケアを適切に補完する為にも、また、家族による支援を破綻させない為にも、本人と家族の状況に柔軟に対応できるサービス体制が必要であることが示唆された。

次に、患者自身の回答についても検討し、その結果、退院の可能性、退院後の生活の場、就労の可能性などについて、主治医の判断と本人の希望には乖離があることも確認された。本人の希望を尊重しつつ、同時に破綻を来さない現実的な施策を実施する為には、両者の異同について更に詳細な分析を進める必要がある。また、例えば、主治医が退院が可能と判断し本人も退院を希望する患者においても、病気の再発・悪化、就職、家族との関係など様々な不安を、年代に応じて抱えていることも確認された。

以上のように、主治医が退院が可能と判断する入院患者についても、ライフステージに応じた特性があり、それ

に留意した施策が退院促進の為には必要である。しかし同時に、同じライフステージ内でも特性は多岐に亘って分布しており、それにも配慮したよりきめ細かな施策が必要であることにも留意する必要があるだろう。

E 健康危険情報

なし

F 研究発表

適宜発表の予定

G 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

なし

表-1 退院の可能性(主治医調査票:対象者は、問27～問34までで示すような居住先・支援が整えば退院は可能ですか。あてはまるものを1つ選択してください。)、対象:主治医調査票が回収された全入院患者)

年齢	現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院は可能		状態の改善が見込まれるので、居住先・支援などを新たに用意しなくても近い将来(6ヶ月以内)には退院が可能になる		状態の改善が見込まれるので、居住先・支援が整えば近い将来(6ヶ月以内)には退院が可能になる		状態の改善は見込まれず、居住先・支援を整えても近い将来(6ヶ月以内)の退院の可能性はない		複数解答・未回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	17	25.4%	18	26.9%	27	40.3%	4	6.0%	1	1.5%	67
20-29歳	94	20.3%	122	26.3%	187	40.4%	55	11.9%	5	1.1%	463
30-39歳	174	17.0%	142	13.9%	410	40.0%	286	27.9%	12	1.2%	1024
40-49歳	262	15.3%	133	7.8%	655	38.3%	633	37.0%	28	1.7%	1711
50-59歳	480	13.9%	188	5.4%	1257	36.4%	1474	42.6%	58	1.6%	3457
60-69歳	407	13.6%	105	3.5%	1041	34.7%	1388	46.3%	58	1.9%	2999
70歳-	326	14.3%	66	2.9%	815	35.8%	1026	45.1%	42	1.8%	2275
不明	7	53.8%	1	7.7%	3	23.1%	2	15.4%	0	0%	13
総計	1767	14.7%	775	6.5%	4395	36.6%	4868	40.5%	204	1.7%	12009

表-2 年齢別在院期間(対象:主治医が「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院は可能」と回答した入院患者、以下特記している表を除き同じ)

年齢	1ヶ月未満		1～3ヶ月未満		3～6ヶ月未満		3ヶ月～1年未満		1～1年6ヶ月未満		1.5年～3年未満	
-19歳	6	35.3%	5	29.4%	3	17.6%	2	11.8%	1	5.9%	0	0%
20-29歳	20	21.3%	22	23.4%	18	19.1%	10	10.6%	3	3.2%	10	10.6%
30-39歳	26	14.9%	40	23.0%	24	13.8%	23	13.2%	12	6.9%	13	7.5%
40-49歳	39	14.9%	45	17.2%	32	12.2%	21	8.0%	9	3.4%	29	11.1%
50-59歳	40	8.3%	59	12.3%	42	8.8%	24	5.0%	16	3.3%	58	12.1%
60-69歳	28	6.9%	40	9.8%	25	6.1%	22	5.4%	18	4.4%	42	10.3%
70歳-	17	5.2%	50	15.3%	39	12.0%	27	8.3%	18	5.5%	41	12.6%
不明	0	0%	3	42.9%	1	14.3%	0	0%	0	0%	0	0%
計	176	10.0%	264	14.9%	184	10.4%	129	7.3%	77	4.4%	193	10.9%

年齢	3～5年未満		5～10年未満		10～20年未満		20年以上		不明		総計
-19歳	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	
20-29歳	4	4.3%	6	6.4%	1	1.1%	0	0%	0	0%	94
30-39歳	12	6.9%	15	8.6%	8	4.6%	0	0%	1	1%	174
40-49歳	20	7.6%	28	10.7%	26	9.9%	12	4.6%	1	0.4%	262
50-59歳	40	8.3%	59	12.3%	82	17.1%	59	12.3%	1	0.2%	480
60-69歳	42	10.3%	56	13.8%	62	15.2%	71	17.4%	1	0.2%	407
70歳-	25	7.7%	43	13.2%	29	8.9%	36	11.0%	1	0.3%	326
不明	0	0%	1	14.0%	0	0%	0	0%	2	29%	7
計	143	8.1%	208	11.8%	208	11.8%	178	10.1%	7	0.4%	1767

表-3 ICD-10に基づく診断別内訳

年齢	痴呆性疾患(F00-03)		その他の症状性を含む器質性障害(F04-09)		アルコールによる精神・行動の障害(F10)		その他の精神作用物質による精神・行動の障害(F11-19)		統合失調症(精神分裂病)(F20)		その他の精神障害(F21-29)	
	-19歳	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	23.5%	0
20-29歳	1	1.1%	2	2.1%	3	3.2%	4	4.3%	56	59.6%	0	0%
30-39歳	1	0.6%	2	1.1%	9	5.2%	3	1.7%	109	62.6%	9	5.2%
40-49歳	2	0.8%	2	0.8%	32	12.2%	3	1.1%	153	58.4%	7	2.7%
50-59歳	9	1.9%	11	2.3%	56	11.7%	0	0%	300	62.5%	16	3.3%
60-69歳	18	4.4%	13	3.2%	50	12.3%	0	0%	235	57.7%	13	3.2%
70歳-	103	31.6%	18	5.5%	11	3.4%	0	0%	112	34.4%	9	2.8%
不明	2	28.6%	0	0%	0	0%	0	0%	3	42.9%	0	0%
総計	136	7.7%	48	2.7%	161	9.1%	10	0.6%	972	55.0%	54	3.1%

年齢	気分(感情)障害(F3)		神経症性・ストレス関連・身体表現性障害(F4)		生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群(F5)		成人の人格・行動の障害(F6)		精神遅滞(F7)		心理的発達の障害(F8)	
	-19歳	2	11.8%	5	29.4%	2	11.8%	0	0%	0	0%	0
20-29歳	4	4.3%	4	4.3%	2	2.1%	8	8.5%	5	5.3%	1	1.1%
30-39歳	17	9.8%	6	3.4%	0	0%	5	2.9%	6	3.4%	2	1.1%
40-49歳	31	11.8%	11	4.2%	0	0%	6	2.3%	5	1.9%	0	0%
50-59歳	48	10.0%	11	2.3%	0	0%	2	0.4%	11	2.3%	0	0%
60-69歳	42	10.3%	8	2.0%	3	0.7%	3	0.7%	8	2.0%	0	0%
70歳-	39	12.0%	13	4.0%	1	0.3%	2	0.6%	6	1.8%	1	0.3%
不明	2	28.6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
総計	185	10.5%	58	3.3%	8	0.5%	26	1.5%	41	2.3%	4	0.2%

表-3 ICD-10に基づく診断別内訳 (つづき)

年齢	小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害 (F90-98)		特定不能の精神障害 (F99)		てんかん (G40)		複数回答・未回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	2	11.8%	0	0%	0	0%	2	11.8%	17
20-29歳	1	1.1%	0	0%	1	1.1%	2	2.2%	94
30-39歳	1	0.6%	0	0%	1	0.6%	3	1.7%	174
40-49歳	0	0%	0	0%	4	1.5%	6	2.2%	262
50-59歳	0	0%	0	0%	7	1.5%	9	1.9%	480
60-69歳	0	0%	2	0.5%	6	1.5%	6	1.4%	407
70歳-	0	0%	0	0%	5	1.5%	6	1.8%	326
不明	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	7
総計	4	0.2%	2	0.1%	24	1.4%	24	1.4%	1767

表-4 GAF(機能の全体的評定尺度)

年齢	～20点	21～40点	41～60点	61～80点	81～100点	未回答	総計
-19歳	0	5	6	5	1	0	17
20-29歳	1	17	34	36	6	0	94
30-39歳	4	33	72	54	10	1	174
40-49歳	1	55	93	98	14	1	262
50-59歳	4	108	174	152	39	3	480
60-69歳	2	112	134	136	21	2	407
70歳-	26	90	89	109	10	2	326
不明	1	2	3	1	0	0	7
計	39	422	605	591	101	9(0.5%)	1767

表-5 患者が抱えている自己の病状についての洞察(病識)

年齢	十分ある	不十分	ほとんどない	不明	総計
-19歳	5	7	5	0	17
20-29歳	37	38	19	0	94
30-39歳	56	92	26	0	174
40-49歳	81	148	32	1	262
50-59歳	124	266	90	0	480
60-69歳	85	225	97	0	407
70歳-	44	161	121	0	326
不明	1	3	3	0	7
計	433	940	393	1(0.1%)	1767

表-6 薬物療法の必要性の認識

年齢	十分に認識している	不十分・服薬	不十分・服薬しない	不要	総計
-19歳	2	9	2	4	17
20-29歳	36	51	5	2	94
30-39歳	63	101	10	0	174
40-49歳	94	152	13	3	262
50-59歳	147	297	33	3	480
60-69歳	113	266	25	3	407
70歳-	58	222	25	21	326
不明	2	5	0	0	7
計	515	1103	113	36	1767

表-7 IADL(手段的日常生活動作)の困難度

IADL	年齢	問題ない		いくらか困難(援助が必要、非常にゆっくりしている、疲れる)		非常に困難(ほとんど、あるいは全く本人は実施できない)		複数回答・未回答	総計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合			
食事の用意	-19歳	3	17.6%	9	52.9%	4	23.5%	1	5.9%	17
	20-29歳	34	36.2%	37	39.4%	23	24.5%	0	0%	94
	30-39歳	51	29.3%	87	50.0%	36	20.7%	0	0%	174
	40-49歳	78	29.8%	118	45.0%	63	24.0%	3	1.1%	262
	50-59歳	117	24.4%	203	42.3%	157	32.7%	3	0.6%	480
	60-69歳	62	15.2%	167	41.0%	175	43.0%	3	0.7%	407
	70歳-	22	6.7%	74	22.7%	229	70.2%	1	0.3%	326
	不明	2	28.6%	3	42.9%	2	28.6%	0	0%	7
	計	369	20.9%	698	39.5%	689	39.0%	11	0.6%	1767
家事一般	-19歳	3	17.6%	10	58.8%	3	17.6%	1	5.9%	17
	20-29歳	35	37.2%	43	45.7%	16	17.0%	0	0%	94
	30-39歳	59	33.9%	92	52.9%	23	13.2%	0	0%	174
	40-49歳	92	35.1%	127	48.5%	40	15.3%	3	1.1%	262
	50-59歳	151	31.5%	232	48.3%	95	19.8%	2	0.4%	480
	60-69歳	85	20.9%	209	51.4%	111	27.3%	2	0.5%	407
	70歳-	36	11.0%	100	30.7%	189	58.0%	1	0.3%	326
	不明	3	42.9%	3	42.9%	1	14.3%	0	0%	7
	計	464	26.3%	816	46.2%	478	27.1%	9	0.5%	1767
金銭管理	-19歳	3	17.6%	11	64.7%	2	11.8%	1	5.9%	17
	20-29歳	42	44.7%	37	39.4%	15	16.0%	0	0%	94
	30-39歳	63	36.2%	86	49.4%	25	14.4%	0	0%	174
	40-49歳	101	38.5%	111	42.4%	47	17.9%	3	1.1%	262
	50-59歳	162	33.8%	196	40.8%	119	24.8%	3	0.6%	480
	60-69歳	102	25.1%	186	45.7%	118	29.0%	1	0.2%	407
	70歳-	51	15.6%	96	29.4%	178	54.6%	1	0.3%	326
	不明	3	42.9%	2	28.6%	2	28.6%	0	0%	7
	計	527	29.8%	725	41.0%	506	28.6%	9	0.5%	1767
薬の管理	-19歳	4	23.5%	10	58.8%	2	11.8%	1	5.9%	17
	20-29歳	37	39.4%	46	48.9%	11	11.7%	0	0%	94
	30-39歳	69	39.7%	87	50.0%	18	10.3%	0	0%	174
	40-49歳	125	47.7%	103	39.3%	31	11.8%	3	1.1%	262
	50-59歳	189	39.4%	207	43.1%	78	16.3%	6	1.2%	480
	60-69歳	109	26.8%	209	51.4%	86	21.1%	3	0.7%	407
	70歳-	52	16.0%	109	33.4%	164	50.3%	1	0.3%	326
	不明	3	42.9%	3	42.9%	1	14.3%	0	0%	7
	計	588	33.3%	774	43.8%	391	22.1%	14	0.8%	1767
電話の利用	-19歳	8	47.1%	7	41.2%	1	5.9%	1	5.9%	17
	20-29歳	76	80.9%	14	14.9%	4	4.3%	0	0%	94
	30-39歳	130	74.7%	38	21.8%	6	3.4%	0	0%	174
	40-49歳	201	76.7%	45	17.2%	13	5.0%	3	1.1%	262
	50-59歳	315	65.6%	126	26.3%	36	7.5%	3	0.6%	480
	60-69歳	199	48.9%	154	37.8%	52	12.8%	2	0.5%	407
	70歳-	96	29.4%	110	33.7%	119	36.5%	1	0.3%	326
	不明	4	57.1%	2	28.6%	1	14.3%	0	0%	7
	計	1029	58.2%	496	28.1%	232	13.1%	10	0.6%	1767
買い物	-19歳	7	41.2%	7	41.2%	2	11.8%	1	5.9%	17
	20-29歳	64	68.1%	25	26.6%	5	5.3%	0	0%	94
	30-39歳	113	64.9%	52	29.9%	9	5.2%	0	0%	174
	40-49歳	163	62.2%	81	30.9%	15	5.7%	3	1.1%	262
	50-59歳	250	52.1%	171	35.6%	56	11.7%	3	0.6%	480
	60-69歳	152	37.3%	178	43.7%	75	18.4%	2	0.5%	407
	70歳-	59	18.1%	117	35.9%	149	45.7%	1	0.3%	326
	不明	4	57.1%	2	28.6%	1	14.3%	0	0%	7
	計	812	46.0%	633	35.8%	312	17.7%	10	0.6%	1767
交通手段の利用	-19歳	6	35.3%	8	47.1%	2	11.8%	1	5.9%	17
	20-29歳	69	73.4%	17	18.1%	8	8.5%	0	0%	94
	30-39歳	117	67.2%	50	28.7%	7	4.0%	0	0%	174
	40-49歳	170	64.9%	66	25.2%	23	8.8%	3	1.1%	262
	50-59歳	242	50.4%	155	32.3%	80	16.7%	3	0.6%	480
	60-69歳	136	33.4%	174	42.8%	95	23.3%	2	0.5%	407
	70歳-	53	16.3%	88	27.0%	184	56.4%	1	0.3%	326
	不明	3	42.9%	3	42.9%	1	14.3%	0	0%	7
	計	796	45.0%	561	31.7%	400	22.6%	10	0.6%	1767

図-1 IADL困難度が「いくらか困難」または「非常に困難」の項目数

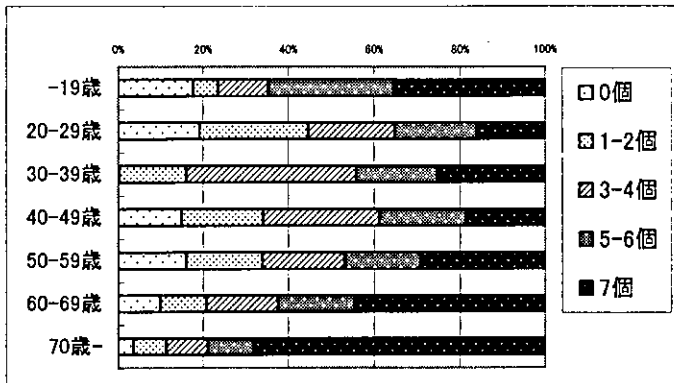


表-8 退院後適切と考えられる「暮らしの場」

年齢	家族と同居		以前の住居でひとり暮らし		新住居でひとり暮らし		生活訓練施設		福祉ホーム	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
-19歳	11	64.7%	0	0%	0	0%	2	11.8%	1	5.9%
20-29歳	77	81.9%	2	2.1%	6	6.4%	4	4.3%	0	0%
30-39歳	110	63.2%	16	9.2%	14	8.0%	16	9.2%	2	1.1%
40-49歳	148	56.5%	15	5.7%	19	7.3%	29	11.1%	11	4.2%
50-59歳	223	46.5%	33	6.9%	39	8.1%	80	16.7%	27	5.6%
60-69歳	145	35.6%	23	5.7%	15	3.7%	47	11.5%	24	5.9%
70歳-	78	23.9%	10	3.1%	1	0.3%	14	4.3%	4	1.2%
不明	5	71.4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	797	45.1%	99	5.6%	94	5.3%	192	10.9%	69	3.9%

年齢	入所療養施設		グループホーム		老人保健施設		特別養護老人ホーム		介護老人ホーム	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
-19歳	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20-29歳	0	0%	2	2.1%	0	0%	1	1.1%	0	0%
30-39歳	0	0%	11	6.3%	0	0%	0	0%	0	0%
40-49歳	6	2.3%	24	9.2%	2	0.8%	0	0%	0	0%
50-59歳	9	1.9%	40	8.3%	5	1.0%	4	0.8%	1	0.2%
60-69歳	5	1.2%	40	9.8%	18	4.4%	33	8.1%	24	5.9%
70歳-	1	0.3%	22	6.7%	43	13.2%	88	27.0%	47	14.4%
不明	0	0%	0	0%	0	0%	1	14.3%	0	0%
計	21	1.2%	139	7.9%	68	3.8%	127	7.2%	72	4.1%

年齢	その他福祉施設		その他		将来の退院を想定できない		複数回答・無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	0	0%	2	11.8%	0	0%	1	5.9%	17
20-29歳	0	0%	1	1.1%	0	0%	1	1.1%	94
30-39歳	0	0%	5	2.9%	0	0%	0	0%	174
40-49歳	0	0%	2	0.8%	3	1.1%	3	1.2%	262
50-59歳	1	0.2%	10	2.1%	3	0.6%	5	1.0%	480
60-69歳	8	2.0%	8	2.0%	7	1.7%	10	2.5%	407
70歳-	7	2.1%	4	1.2%	3	0.9%	4	1.2%	326
不明	0	0%	0	0%	1	14.3%	0	0.0%	7
計	16	0.9%	32	1.8%	17	1.0%	24	1.4%	1767

表-9 支援の必要性

年齢	専門職による援助		非専門職による援助		給食サービス							
	無	有	無	有	無	有						
-19歳	13	76.5%	4	23.5%	12	70.6%	5	29.4%	15	88.2%	2	11.8%
20-29歳	45	47.9%	49	52.1%	83	88.3%	11	11.7%	90	97.9%	2	2.1%
30-39歳	78	44.8%	96	55.2%	144	82.8%	30	17.2%	162	93.1%	12	6.9%
40-49歳	121	46.2%	141	53.8%	199	76.0%	63	24.0%	237	90.5%	25	9.5%
50-59歳	181	37.7%	299	62.3%	327	68.1%	153	31.9%	407	84.8%	73	15.2%
60-69歳	162	39.8%	245	60.2%	256	62.9%	151	37.1%	338	83.0%	69	17.0%
70歳-	145	44.5%	181	55.5%	150	46.0%	176	54.0%	251	77.0%	75	23.0%
不明	4	57.1%	3	42.9%	7	100%	0	0%	7	100%	0	0%
計	749	42.4%	1018	57.6%	1178	66.7%	589	33.3%	1509	85.4%	258	14.6%

図-2 専門職による援助の必要性和頻度

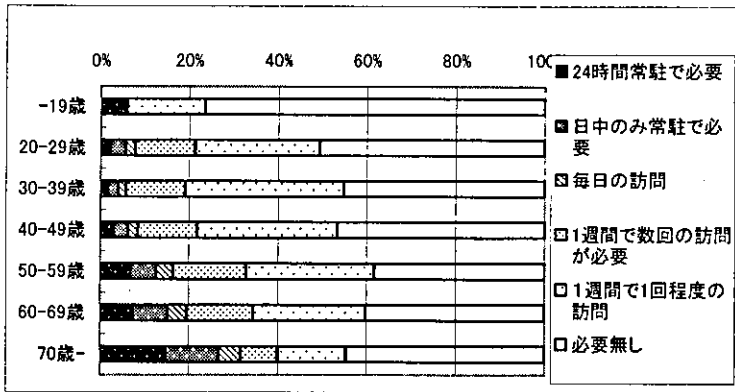


図-3 非専門職による援助の必要性和頻度

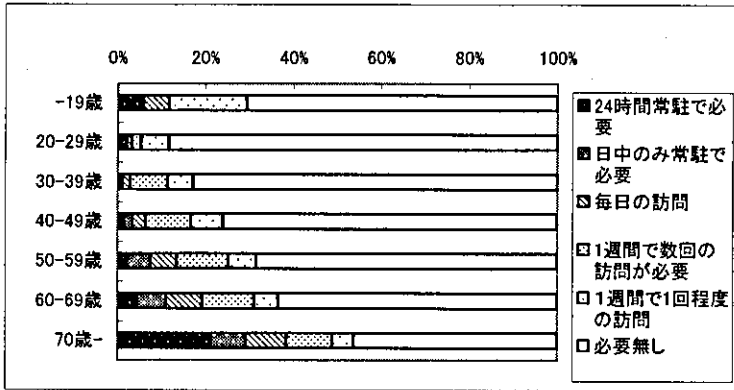


表-10 主治医が適当と考える適当な「暮らしの場」と、専門職による援助の必要性

暮らしの場	必要												不要	総計	
	24時間常駐		日中のみ常駐		毎日の訪問		週数回の訪問		週1回の訪問		複数回答・未回答				
家族と同居	8	1.0%	7	1.0%	16	4.3%	102	27.1%	230	61.2%	13	3.5%	421	52.8%	797
単身での生活	2	1.9%	0	0%	1	0.9%	23	21.3%	82	75.9%	0	0%	85	44.0%	193
精神障害者施設	34	10.9%	50	16.0%	31	9.9%	92	29.4%	102	32.6%	4	1.3%	108	25.7%	421
高齢者施設	71	38.2%	51	27.4%	12	6.5%	14	7.5%	34	18.3%	4	2.1%	97	34.3%	283
未回答等	8	22.9%	6	17.1%	4	11.4%	4	11.4%	13	37.1%	0	0.0%	38	52.1%	73
計	123	12.1%	114	11.2%	64	6.3%	235	23.1%	461	45.3%	21	2.1%	749	42.4%	1767

表-11 主治医が適当と考える「暮らしの場」と、非専門職による援助の必要性

暮らしの場	必要												不要	総計	
	24時間常駐		日中のみ常駐		毎日の訪問		週数回の訪問		週1回の訪問		複数回答・未回答				
家族と同居	7	0.9%	6	0.8%	25	3.1%	75	9.4%	47	5.9%	1	0.1%	636	79.8%	797
単身での生活	0	0%	1	0.5%	5	2.6%	30	15.5%	20	10.4%	2	1.0%	135	69.9%	193
精神障害者施設	12	2.9%	38	9.0%	52	12.4%	62	14.7%	31	7.4%	1	0.2%	225	53.4%	421
高齢者施設	76	26.9%	37	13.1%	19	6.7%	11	3.9%	5	1.8%	2	0.7%	133	47.0%	283
未回答等	10	13.7%	3	4.1%	4	5.5%	4	5.5%	3	4.1%	0	0%	49	67.1%	73
計	105	5.9%	85	4.8%	105	5.9%	182	10.3%	106	6.0%	6	0.3%	1178	66.7%	1767

表-12 退院した場合に家族や友人から得られると期待される支援の程度

年齢	得られない		助言・精神的支援		週数回のADL, IADL		ほぼ毎日のADL, IADL		必要であれば24時間のADL, IADL		未回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	0	0%	3	17.6%	2	11.8%	4	23.5%	7	41.2%	1	5.9%	17
20-29歳	9	9.6%	32	34%	9	9.6%	28	29.8%	15	16%	1	1.1%	94
30-39歳	21	12.1%	72	41.4%	21	12.1%	36	20.7%	23	13.2%	1	0.6%	174
40-49歳	57	21.8%	94	35.9%	28	10.7%	58	22.1%	22	8.4%	3	1.1%	262
50-59歳	134	27.9%	218	45.4%	30	6.3%	58	12.1%	34	7.1%	6	1.3%	480
60-69歳	134	32.9%	166	40.8%	31	7.6%	47	11.5%	20	4.9%	9	2.2%	407
70歳-	95	29.1%	132	40.5%	29	8.9%	41	12.6%	25	7.7%	4	1.2%	326
不明	1	14.3%	2	28.6%	2	28.6%	1	14.3%	1	14.3%	0	0%	7
計	451	25.5%	719	40.7%	152	8.6%	273	15.4%	147	8.3%	25	1.4%	1767

表-13 家族と同居が適当と主治医が判断した患者が退院した場合に家族や友人から得られると期待される支援の程度

年齢	得られない		助言・精神的支援		週数回のADL, IADL		ほぼ毎日のADL, IADL		必要であれば24時間のADL, IADL		未回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	0	0%	2	18.2%	0	0%	3	27.3%	6	54.5%	0	0%	11
20-29歳	5	6.5%	23	29.9%	6	7.8%	28	36.4%	14	18.2%	1	1.3%	77
30-39歳	5	4.5%	38	34.5%	16	14.5%	29	26.4%	21	19.1%	1	0.9%	110
40-49歳	9	6.1%	45	30.4%	19	12.8%	51	34.5%	22	14.9%	2	1.4%	148
50-59歳	28	12.6%	87	39.0%	18	8.1%	54	24.2%	33	14.8%	3	1.3%	223
60-69歳	21	14.5%	52	35.9%	11	7.6%	41	28.3%	17	11.7%	3	2.1%	145
70歳-	9	11.5%	21	26.9%	10	12.8%	23	29.5%	14	17.9%	1	1.3%	78
不明	1	20.0%	2	40.0%	0	0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0%	5
総計	78	9.8%	270	33.9%	80	10.0%	230	28.9%	128	16.1%	11	1.4%	797

表-14 家族・親戚や親しい友人による面会頻度

年齢	月に1回以上		年に数回		年に1~2回		ほとんどない		複数回答・未回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	15	88.2%	1	5.9%	0	0%	0	0%	0	0%	17
20-29歳	80	85.1%	8	8.5%	0	0%	5	5.3%	0	0%	94
30-39歳	131	75.3%	26	14.9%	2	1.1%	15	8.6%	0	0%	174
40-49歳	130	49.6%	56	21.4%	21	8.0%	52	19.8%	0	0%	262
50-59歳	171	35.6%	117	24.4%	45	9.4%	145	30.2%	0	0%	480
60-69歳	122	30.0%	94	23.1%	54	13.3%	133	32.7%	4	0.9%	407
70歳-	142	43.6%	69	21.2%	26	8.0%	85	26.1%	0	0%	326
不明	5	71.4%	1	14.3%	0	0%	1	14.3%	0	0%	7
計	796	45.0%	372	21.1%	148	8.4%	436	24.7%	15	0.9%	1767

表-15 退院した場合に可能と思われる就労能力

年齢	フルタイム(一般)		フルタイム(低労働)		パートタイム		授産施設・作業所		いずれも困難	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
-19歳	2	11.8%	0	0.0%	6	35.3%	6	35.3%	1	5.9%
20-29歳	10	10.6%	12	12.8%	33	35.1%	29	30.9%	10	10.6%
30-39歳	15	8.6%	17	9.8%	49	28.2%	64	36.8%	29	16.7%
40-49歳	31	11.8%	24	9.2%	52	19.8%	102	38.9%	47	17.9%
50-59歳	31	6.5%	26	5.4%	69	14.4%	204	42.5%	143	29.8%
60-69歳	13	3.2%	11	2.7%	48	11.8%	138	33.9%	186	45.7%
70歳-	4	1.2%	1	0.3%	12	3.7%	30	9.2%	269	82.5%
不明	1	14.3%	1	14.3%	1	14.3%	1	14.3%	2	28.6%
計	107	6.1%	92	5.2%	270	15.3%	574	32.5%	687	38.9%

年齢	退院を想定できず		複数回答・未回答		総計
	人数	割合	人数	割合	
-19歳	0	0%	2	11.8%	17
20-29歳	0	0%	0	0%	94
30-39歳	0	0%	0	0%	174
40-49歳	3	1.1%	1	0%	262
50-59歳	4	0.8%	3	0.6%	480
60-69歳	6	1.5%	5	1.2%	407
70歳-	5	1.5%	4	1.2%	326
不明	1	14.3%	0	0%	7
計	19	1.1%	18	0.1%	1767

表-16 患者本人の退院の希望(患者調査票:「あなたは今後半年以内に退院を希望しますか」、対象:患者調査票を提出した全入院患者)

年齢	退院を希望		退院を希望しない		わからない		重複解答・未回答		総計
-19歳	41	70.7%	5	8.6%	12	20.7%	0	0%	58
20-29歳	339	79.4%	29	6.8%	52	12.2%	7	1.7%	427
30-39歳	701	72.9%	100	10.4%	142	14.8%	18	1.9%	961
40-49歳	949	58.8%	272	16.8%	352	21.8%	42	2.6%	1615
50-59歳	1746	54.1%	694	21.5%	700	21.7%	89	2.7%	3229
60-69歳	1350	48.8%	725	26.2%	589	21.3%	111	3.6%	2765
70歳-	797	43.7%	530	29.1%	411	22.5%	86	4.7%	1824
不明	56	32.2%	16	9.2%	25	14.4%	77	44.3%	174
計	5979	54.1%	2371	21.5%	2283	20.7%	420	3.8%	11053

表-17 本人の退院の希望と主治医の判断の異同

主治医の判断	本人の希望								総計
	退院を希望する		退院を希望しない		わからない		複数回答・未回答他		
現在でも整えば可能	1037	8.6%	289	2.4%	297	2.5%	144	1.2%	1767(14.7%)
新たに用意しなくても近い将来可能	611	5.1%	36	0.3%	68	0.6%	60	0.4%	775(6.5%)
近い将来整えば可能	2226	18.5%	840	7.0%	870	7.2%	459	3.9%	4395(36.6%)
退院の可能性はない	1967	16.4%	1145	9.5%	988	8.2%	768	6.3%	4868(40.5%)
複数回答	0	0%	3	0%	0	0%	1	0%	4(0%)
無回答	89	0.7%	43	0.4%	37	0.3%	31	0.2%	200(1.7%)
総計	5930	49.4%	2356	19.6%	2260	18.8%	1463	12.2%	12009(100%)

表-18 患者本人が退院後に希望する暮らしの場(患者調査票:「あなたが退院されるとしたら、どのようなところで暮らしたいと思っていますか」)

年齢	家族と同居		以前の住居でひとり暮らし		新住居でひとり暮らし		福祉ホーム等		グループホーム		老人福祉施設	
-19歳	8	53.3%	1	6.7%	1	6.7%	3	20.0%	0	0%	0	0%
20-29歳	58	65.9%	5	5.7%	11	12.5%	2	2.3%	4	4.5%	0	0%
30-39歳	82	49.1%	23	13.8%	26	15.6%	9	5.4%	1	0.6%	0	0%
40-49歳	125	49.4%	35	13.8%	35	13.8%	7	2.8%	5	2.0%	0	0%
50-59歳	203	43.6%	62	13.3%	52	11.2%	19	4.1%	24	5.2%	6	1.3%
60-69歳	147	37.5%	60	15.3%	25	6.4%	10	2.6%	17	4.3%	27	6.9%
70歳-	103	37.3%	28	10.1%	5	1.8%	2	0.7%	7	2.5%	23	8.3%
不明	3	50.0%	0	0%	1	16.7%	0	0%	0	0%	0	0%
計	729	43.8%	214	12.9%	156	9.4%	52	3.1%	58	3.5%	56	3.4%

年齢	その他		わからない		重複解答		無回答		患者調査票未回収	総計
-19歳	0	0%	2	13.3%	0	0%	0	0%	2	17
20-29歳	2	2.3%	3	3.4%	1	1.1%	2	2.3%	6	94
30-39歳	4	2.4%	9	5.4%	2	1.2%	11	6.6%	7	174
40-49歳	2	0.8%	20	7.9%	6	2.4%	18	7.1%	9	262
50-59歳	15	3.2%	40	8.6%	13	2.8%	32	6.9%	14	480
60-69歳	11	2.8%	46	11.7%	12	3.1%	37	9.4%	15	407
70歳-	13	4.7%	40	14.5%	10	3.6%	45	16.3%	50	326
不明	1	16.7%	1	16.7%	0	0%	0	0%	1	7
計	48	2.9%	161	9.7%	44	2.6%	145	8.7%	104	1767

表-19 患者本人が退院後に希望する仕事(患者調査票:「退院して社会生活が進められるようになった場合、働くことについて以下のどの状態を希望しますか」)

年齢	フルタイム(一般)		フルタイム(短労働)		パートタイム		自営業		授産施設・作業所		家事手伝い	
-19歳	1	6.7%	1	6.7%	3	20.0%	1	6.7%	0	0%	1	6.7%
20-29歳	25	28.4%	11	12.5%	24	27.3%	3	3.4%	5	5.7%	4	4.5%
30-39歳	43	25.7%	13	7.8%	38	22.8%	9	5.4%	15	9.0%	9	5.4%
40-49歳	47	18.6%	28	11.1%	53	20.9%	15	5.9%	19	7.5%	27	10.7%
50-59歳	75	16.1%	46	9.9%	60	12.9%	25	5.4%	24	5.2%	74	15.9%
60-69歳	22	5.6%	29	7.4%	40	10.2%	33	8.4%	14	3.6%	65	16.6%
70歳-	5	1.8%	6	2.2%	10	3.6%	9	3.3%	4	1.4%	43	15.6%
不明	3	50%	0	0%	1	16.7%	0	0%	0	0%	0	0%
計	221	13.3%	134	8.1%	229	13.8%	95	5.7%	81	4.9%	223	13.4%

表-19 退院後に患者本人が希望する仕事（つづき）

年齢	働かなくてもよい		働きたくない		その他		重複解答・未回答	本人データ非存在	総計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合				
-19歳	7	46.7%	0	0%	1	6.7%	0	0%	2	17
20-29歳	3	3.4%	4	4.5%	3	3.4%	6	6.8%	6	94
30-39歳	3	1.8%	12	7.2%	15	9.0%	10	6.0%	7	174
40-49歳	1	0.4%	15	5.9%	21	8.3%	27	10.7%	9	262
50-59歳	8	1.7%	67	14.4%	39	8.4%	48	10.3%	14	480
60-69歳	12	3.1%	81	20.7%	46	11.7%	50	12.8%	15	407
70歳-	13	4.7%	79	28.6%	50	18.1%	57	20.7%	50	326
不明	1	16.7%	0	0%	1	16.7%	0	0%	1	7
計	48	2.9%	258	15.5%	176	10.6%	198	11.9%	104	1767

表-20 退院後の「暮らしの場」について主治医の判断と本人の希望

主治医	本人										総計		
	家族と同居		ひとり暮らし		精神障害者入所施設		グループホーム		高齢者用施設			その他	
家族と同居	499	62.6%	99	12.4%	11	1.4%	15	1.9%	7	0.9%	166	20.8%	797
1人暮らし	27	14.0%	119	61.7%	3	1.6%	7	3.6%	4	2.1%	33	17.1%	193
精神障害者用施設	77	27.3%	62	22.0%	25	8.9%	9	3.2%	8	2.8%	101	35.8%	282
グループホーム	33	23.7%	40	28.8%	4	2.9%	18	12.9%	9	6.5%	35	25.2%	139
高齢者用施設	77	27.2%	29	10.2%	4	1.4%	8	2.8%	24	8.5%	141	49.8%	283
その他	16	21.9%	21	28.8%	5	6.8%	1	1.4%	4	5.5%	26	35.6%	73
総計	729	41.3%	370	20.9%	52	2.9%	58	3.3%	56	3.2%	502	28.4%	1767

表-21 退院後の就労について主治医の判断と本人の希望の異同

主治医	本人				総計				
	フルタイム	パート・自営	作業所・授産施設	その他					
通常勤務	40	37.4%	36	33.6%	2	1.9%	29	27.1%	107
低労働・パート	71	19.6%	151	41.7%	12	3.3%	128	35.4%	362
作業所・授産施設	67	11.7%	153	26.7%	53	9.2%	301	52.4%	574
その他	43	5.9%	118	16.3%	14	1.9%	549	75.8%	724
総計	221	12.5%	458	25.9%	81	4.6%	1007	57.0%	1767

表-22 退院後の不安(患者調査票：「あなたが退院されるとしたら、退院後の生活で不安なことはありますか」【複数回答可】)
(対象：主治医が「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院が可能」と判断し、本人も「退院を希望する」と回答した患者)

年齢	病気の再発・悪化		家族との関係		ひとり暮らし		復職		就職		年金	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
-19歳	4	44.4%	5	55.6%	2	22.2%	0	0%	1	11.1%	1	11.1%
20-29歳	40	51.3%	27	34.6%	12	15.4%	11	14.1%	36	46.2%	9	11.5%
30-39歳	61	46.9%	47	36.2%	25	19.2%	24	18.5%	47	36.2%	13	10.0%
40-49歳	85	47.0%	54	29.8%	37	20.4%	28	15.5%	63	34.8%	29	16.0%
50-59歳	111	38.0%	50	17.1%	58	19.9%	37	12.7%	82	28.1%	38	13.0%
60-69歳	80	36.7%	44	20.2%	42	19.3%	18	8.3%	44	20.2%	21	9.6%
70歳-	49	39.2%	22	17.6%	27	21.6%	3	2.4%	6	4.8%	11	8.8%
不明	2	50.0%	0	0%	0	0%	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%
計	432	41.7%	249	24.0%	203	19.6%	122	11.8%	281	27.1%	123	11.9%

年齢	経済的		住居		その他		不安は特に無い		未回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	1	11.1%	2	22.2%	0	0%	2	22.2%	0	0%	9
20-29歳	9	11.5%	10	12.8%	7	9.0%	15	19.2%	1	1.3%	78
30-39歳	13	10.0%	25	19.2%	10	7.7%	16	12.3%	2	1.5%	130
40-49歳	29	16.0%	40	22.1%	10	5.5%	28	15.5%	0	0%	181
50-59歳	38	13.0%	59	20.2%	15	5.1%	66	22.6%	5	1.7%	292
60-69歳	21	9.6%	37	17.0%	6	2.8%	57	26.1%	6	2.8%	218
70歳-	11	8.8%	18	14.4%	10	8.0%	41	32.8%	2	1.6%	125
不明	1	25.0%	0	0%	0	0%	1	25.0%	0	0%	4
計	123	11.9%	191	18.4%	58	5.6%	226	21.8%	16	1.5%	1037

表-23 退院を希望しない理由 (患者調査票: 「退院を希望されない理由は、つぎのうちどれですか」【複数回答可】)
 (対象: 主治医が「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院が可能」と判断し、本人は「退院を希望しない」と回答した患者)

年齢	まだよくなっていないと思う		まだ良くなっていないと言われる		社会生活に失敗するのが不安		体力が不安		入院の方が楽		家族が退院に反対	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
-19歳	0		0		0		0		0		0	
20-29歳	2	50.0%	1	25.0%	2	50.0%	2	50.0%	2	50.0%	1	25.0%
30-39歳	11	57.9%	4	21.1%	7	36.8%	11	57.9%	10	52.6%	7	36.8%
40-49歳	17	56.7%	3	10.0%	10	33.3%	14	46.7%	7	23.3%	4	13.3%
50-59歳	34	49.3%	4	5.8%	29	42.0%	30	43.5%	28	40.6%	17	24.6%
60-69歳	40	44.0%	12	13.2%	29	31.9%	42	46.2%	41	45.1%	21	23.1%
70歳-	41	53.9%	10	13.2%	16	21.1%	33	43.4%	37	48.7%	12	15.8%
不明	0		0		0		0		0		0	
計	145	50.2%	34	11.8%	93	32.2%	132	45.7%	125	43.3%	62	21.5%

表-23 退院を希望しない理由 (つづき)

年齢	家族に負担をかける		住む場所が心配		仕事ができるか不安		日中の過ごし方が不安		家事ができるか不安		経済的なことが不安	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
-19歳	0		0		0		0		0		0	
20-29歳	2	50.0%	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%
30-39歳	6	31.6%	5	26.3%	12	63.2%	3	15.8%	5	26.3%	9	47.4%
40-49歳	5	16.7%	8	26.7%	13	43.3%	6	20.0%	8	26.7%	12	40.0%
50-59歳	20	29.0%	27	39.1%	32	46.4%	17	24.6%	22	31.9%	27	39.1%
60-69歳	21	23.1%	37	40.7%	29	31.9%	16	17.6%	27	29.7%	33	36.3%
70歳-	28	36.8%	25	32.9%	10	13.2%	14	18.4%	19	25.0%	13	17.1%
不明	0		0		0		0		0		0	
計	82	28.4%	103	35.6%	98	33.9%	57	19.7%	83	28.7%	95	32.9%

年齢	ひとり暮らしが不安		何となく自信がない		あてはまるものはとくにない		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
-19歳	0		0		0		0		0
20-29歳	2	50.0%	2	50.0%	1	25.0%	1	25.0%	4
30-39歳	4	21.1%	3	15.8%	2	10.5%	3	15.8%	19
40-49歳	9	30.0%	10	33.3%	1	3.3%	2	6.7%	30
50-59歳	26	37.7%	27	39.1%	1	1.4%	1	1.4%	69
60-69歳	35	38.5%	32	35.2%	6	6.6%	1	1.1%	91
70歳-	25	32.9%	17	22.4%	4	5.3%	0	0%	76
不明	0		0		0		0		0
計	101	34.9%	91	31.5%	15	5.2%	8	2.8%	289